

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

わかりやすい版「がん情報」の医療機関での活用と評価に関する研究

研究代表者 八巻知香子 国立がん研究センター がん対策研究所 室長
研究分担者 山内智香子 滋賀県立総合病院 放射線科 科長
研究分担者 堀之内秀仁 国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 医長
研究協力者 關本翌子 国立がん研究センター中央病院 看護部 部長
研究協力者 岡村理 滋賀県立総合病院 がん相談支援センター 相談員
研究協力者 奥田ゆり子 大阪労災病院 がん相談支援センター 相談員
研究協力者 志賀久美子 国立がん研究センター がん対策研究所 看護師
研究協力者 羽山慎亮 国立がん研究センター がん対策研究所 特任研究員

研究要旨

本研究では、知的障害者向けの「大腸がん わかりやすい版」を医療機関内で活用し、どのような人に利用ニーズがあるのか、医療者がどのような場面で活用することが有効であると考えerのかについて調査を行った。がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターや入退院支援センターなどの相談員や看護師に協力を依頼して「大腸がん わかりやすい版」の患者に配布してもらい、その際の患者の反応等についてインタビュー調査をおこなった。

インタビュー調査の結果、「大腸がん わかりやすい版」は患者やその家族等に概ね好評だったことが確認された。また、「大腸がん わかりやすい版」は知的障害のある人を想定して作成したものではあるが、聴覚障害のある人や認知症の人、あるいは障害のない人にとってもわかりやすいという評価を得た。

その一方で、読者対象として高齢者を想定すること、具体的には、誌面の文字の大きさに配慮する必要性が明確に表れた。大腸がん患者には高齢者が多く、今回直接手渡された患者も70代以上であった。そのこともあって、「文字が小さくて読めない・読みづらい」という意見が多く挙がった。

A. 研究目的

本研究では、がんに関する既存の一般向け冊子「各種がん103 大腸がん」をもとに試作された知的障害者向けの「大腸がん わかりやすい版」を、医療機関内で活用し、どのような人に利用ニーズがあるのか、医療者がどのような場面で活用することが有効であると考えerのかについて明らかにする。この結果を通じて、適切な情報提供のあり方を普及させることを目指す。

B. 研究方法

調査をするにあたり、共同研究者や研究協力者より紹介を受けた、がん診療連携拠点病院のがん相談

支援センターや入退院支援センターなどの相談員や看護師に「大腸がん わかりやすい版」の患者への配布を依頼した。

同意を得られた研究対象者（医療者）は、自施設で「大腸がん わかりやすい版」を以下の対象者に説明とともに手渡しすることとした。

【冊子を渡す対象者】

大腸がんの患者もしくは家族で、既存の一般向け冊子「大腸がん」よりも易しい内容に馴染む人

- ・知的障害者などの障害がある人
- ・認知機能が低下している（と予想される）人（後期高齢者など）

- ・外国人など平易な日本語の情報が必要な人
- ・子ども（年齢の制限はない。家族が大腸がんで説明をしたい等）
- ・平易な情報を求めている人

【研究対象者（医療者）が上記の対象者へ冊子を渡す際の説明内容（例）】

この冊子は大腸がんの病気や治療、その後の生活について、易しい言葉で書かれています。あらましを理解するためにお使いください。より詳しい情報が欲しい場合は、がん相談支援センターをご利用ください。

配布が概ね終了した後、研究対象者（医療者）にインタビューを行った。以下の表のとおり、4つの機関・部署において対象者7名に対し半構造化面接を実施した。

インタビュー内容は対面の場合はICレコーダーで録音、オンラインの場合は録画をし、匿名化および固有名詞を除外した上で逐語録を作成した。

表 インタビュー対象者とインタビュー形式

機関	対象者	形式
a	看護師 1名	対面
b	相談員 3名	オンライン
c	看護師 1名	対面
d	相談員 1名、看護師 1名	オンライン

インタビューガイドは以下のとおり作成した。

【インタビュー内容】

- ・「大腸がん わかりやすい版」の全体的な印象
- ・「大腸がん わかりやすい版」の元となった冊子と比較しての印象
- ・「大腸がん わかりやすい版」のさらなる改善点
- ・「大腸がん わかりやすい版」をどういうときに使いたいか
- ・「大腸がん わかりやすい版」をどんな人に手渡したか、それはなぜか
- ・「大腸がん わかりやすい版」をどのような説

明をして渡したか

- ・「大腸がん わかりやすい版」を渡された人の反応はどうであったか
- ・「大腸がん わかりやすい版」を渡したことで役に立ったと思うか、それはなぜか

（倫理面への配慮）

本研究は、国立がん研究センターの倫理審査委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

インタビューの結果、以下の内容が語られた。語りは逐語録から抜粋し、カッコ内は調査者が補足した。語りの末尾にはアルファベット化した機関名および機関内の対象者が複数名の場合は任意の数字を記した。

<全体的な印象および元となった冊子と比較しての印象>

【絵が多くてよい】

- ・すごく絵とかが多くて、わかりやすい (a)
- ・絵がたくさんあって絵本調になっているので、普段の冊子よりすごくわかりやすいというか、イメージしやすい (b1)
- ・絵をふんだんに使ってくださってるのがこの「わかりやすい版」の特色かと思う (d1)

【やさしい印象で手に取りやすい】

- ・たぶんこのやさしい感じからみんな手に取りやすいんだと思う (c)

<さらなる改善点>

【文字の大きさ】

- ・字が大きくなったこのサイズでも厳しかったみたいで、大きめに作っていただけてもよかったかなと思いました (b1)
- ・視覚がすごく入っていいかなと思ったんですけど、やっぱり字が小さくて見えにくかったりというのはあるかなと思いました (b3)

【掲載内容の詳しさ】

- ・渡そうと思った人は（中略）病期も割と進んでら

っしやるかたが多かったんですね。なのでこの冊子だけではなかなか説明が十分にはできなかつたかなとは思いますが (b2)

- ・もう少し治療のところにボリュームを持たせてもいいんじゃないかなっていうのは感じました。あくまで初回治療しかないの、たとえば再発したときの治療であったりとか、緩和ケアについても少しさわりしか書かれていないので (中略) 再発・転移であったりとか、手術ができない状況のかたにも渡せるような冊子であれば、より広のかたに手に取ってもらえるのかなと思ったんです。 (d1)

【イラスト内容の詳しさ】

- ・治療のところなんですけどね、もうちょっと詳しくとか、内視鏡でも、ESGだったらそいでやるんだよという感じの絵があったらもうちょっと治療のイメージがつきやすいかなとか、手術も腹腔鏡と開腹とかいう説明があるんですけど、ちょっとこの絵だけではなかなかそれが伝わらなくて、治療の説明を入れるとするならもうちょっと具体的なところがあると非常に助かったかなと思いました。 (中略) 手術でこっちのほうが楽だよとか言われても腹腔鏡と開腹がよくわかっていなかったりとかされてたので、もし治療の説明とかで使っていくなら、その辺があってもいい (b1)

【冊子のバリエーション】

- ・リンパのことがちょっとわからなかったりとか。ここに全部載せる必要はないかなと思うんですけど (中略) これぐらい絵がたくさんあるとわかりやすいかなとは思いますが。 (b1)
- ・がん種というよりは、がんそのもの自体を放置してたらどうなるかというところ辺がイメージつかない (中略) そこを説明できるツールみたいなものがない (b1)
- ・たとえば手術療法についてわかりやすい版、化学療法についてわかりやすい版、治療ごとにわかりやすい版があったりとか、あとは緩和ケアについてとか。栄養のこととかね、けっこう聞いてくださるんですよ。それぞれのところのわかりやす

い版があれば本当にいいなあ (d1)

<どういうときに使いたいかな>

【対象者】

- ・子どもだったりとか、あとは高齢でちょっと目が不自由、不自由という見えにくくなってきたかたとか、わかりやすいのかなとは思った (a)
- 【イラストなどビジュアル情報での説明】
- ・この病気ってこんなふうが悪くなっていくから、今なんとかしとかなないといけないんだよというところ辺を説明してもらうのに、イメージ、がんが広がっていくというところとか絵にしてくれて、説明しやすいかなと思った (b1)
- ・ろうあの方は視覚的に入る情報でしか情報を得られない状況ですね。やっぱりこうやって視覚的にどういうものかっていう情報であったりとか、どういう治療法があるのか、どういう治療になっていくのかっていうのを目で見てわかるような冊子っていうのはすごくわかりやすいし、イメージ持ってもらいやすいんじゃないかな (d1)

<どんな人に手渡したか、それはなぜか>

- ・80代の女性のかたで、娘さんといっしょに来て (a)
- ・90代のかたと、あとちょっと知的障害のあるかた (b1)
- ・会話がかみあってなかったりとかしたときに、全然話についてきてなさそうだなっていうときとかは、こっちのほうがいいかなって判断になる (b1)
- ・90代の高齢のかたに、お二人ほど (b2)
- ・80代のかたで、精神疾患があって、かつご家族がご本人さんに告知をしたくないっておっしゃってるかたで、ご家族にもわかりやすいかなと思って (b3)
- ・70代で大腸がんステージⅢ期の方で、主治医からは抗がん薬を勧められているという状況 (d1)
- ・80代でご夫婦ともろうあの方で、この方もステージⅢ期の方で、抗がん薬治療をしている方 (d1)
- ・大腸がんの診断がついた方で80代の女性で (中略) 私が対応した後に精神科を受診されて前頭葉型

の認知症の診断のある方 (d2)

<反応はどうであったか>

【わかりやすいという評価】

- ・「すごいわかりやすいね」って言ってくださって (中略) 絵があるので、(冊子のイラストを示しながら) こういう感じで先生と相談をして、おうちでお薬飲んでいただいたりなんて言いながらお伝えをしたら、「すごくわかりやすいです」っていうご意見いただいた (中略) 「これダメなのね」とか。この(冊子にイラストで描いてある) ○とか×とか、食べ物とか「こういうのいいのね」みたいな感じ (a)

【自ら手に取っていた】

- ・スタンドで立てておいた分の冊子のほうも何冊か持って行ってくださっている兆候がありましたので、いつものA5サイズのものよりもわかりやすいイメージのかなと思って見ていました (b1)
- ・待ってる間にたぶんみなさんちょっと読んでみたいですね (c)
- ・ぱっと「わかりやすい版」と書いてくれると、手に取りやすいですね。(中略) ご高齢のかたは大きい冊子で、わかりやすいほうをまず手に取ってくださる (d1)

【自分が受ける検査や治療の確認】

- ・初診ですと、がんセンターでこれから検査しますということは、もうこれに書いてあるんですね。(中略) CTとってもう1回内視鏡して、必要があればMRIとってみたいな (c)
- ・冊子取って「先生ここにあるって言ってた」って手で指したり、冊子を使ってくださって (d2)

【他の人にも使えそうという評価】

- ・これお母さんにも使えそう、親戚に使えそうということで持って帰ってもらった (d1)

【自分に手渡されることに抵抗はなかった】

- ・渡したとき、そんな感じはまったくなかったです。ありがたうって感じだったので (a)
- ・後ろのところに知的障害のある人など書いて (中略) 高齢の人に渡すのに失礼に当たらないかなと渡すのに躊躇はしました。ただ、渡してみ

たけれども、特に何かそれが障害になるとか、気分を害されるとかはなかった (b2)

<役に立ったと思うか、それはなぜか>

【イラストが役に立った】

- ・イメージが湧かないかたとかにはすごく絵でわかったのかなっていうのはあります。こういう感じで取ったんですよとか、このクリッピング。もしお腹切るんだったらこういう感じですか。絵がすごくよかったのかなとは思いました (a)
- ・こういうふうに絵があると、お話ししやすいイメージしやすいのかなと思います (b1)
- ・検査を控えているかただったので、検査のこともイメージしやすいような内容になっているので、それはものすごく役立ったかなというふうに思っています (b3)
- ・診察の場面と図式のものすごく患者さんにとってはわかりやすく手にも取りやすいものとして活用いただけたのかなという印象 (d2)

D. 考察

インタビュー調査の結果、「大腸がん わかりやすい版」は患者やその家族等に概ね好評だったことが確認された。特に、イラストによって理解が進んだこと、また医療者もイラストによって説明がしやすかったことが観察されている。その分、実際の治療の場面など、イラストでより詳しく描写してほしいという声も医療者からあがった。また、「大腸がん わかりやすい版」は知的障害のある人を想定して作成したものではあるが、聴覚障害のある人や認知症の人、あるいは障害のない人にとってもわかりやすいという評価を得た。医療者には、知的障害のある人以外に「わかりやすい版」を手渡すことに対して「患者が抵抗を持つのではないか」という懸念を持つ者もいたが、今回の調査の範囲では患者が抵抗を示したという報告はなかった。医療者から手渡すことには、こうした懸念や判断の難しさなどが語られており、直接手渡された患者は少なかったが、配架してあるものを患者が手に取る様子は観察されていた。これらのことから、「わかりやすい版」

が知的障害のある人に限らず、幅広い層に活用されることが推察される。

その一方で、読者対象として高齢者を想定すること、具体的には、誌面の文字の大きさに配慮する必要性が明確に表れた。大腸がん患者には高齢者が多く、今回直接手渡された患者も70代以上であった。そのこともあって、「文字が小さくて読めない・読みづらい」という意見が多く挙がった。それに対して、「わかりやすい版」はイラストが入っていることに意義が見いだされる傾向にあった。インタビューの中でも、「絵があるかないかの違いなので、この大きいバージョン（わかりやすい版）でわからない人はたぶんどれを渡してもわからないだろうな」

(b1)、「文字だけやったらがん情報サービスの冊子でいいんです」(d1)という語りがあり、医療者から「わかりやすい版」の文章上の工夫が評価されることはなかった。これについては、実際に工夫が不足しているのか、それとも、イラストや点字版・手話版等とは異なって見た目に明確な差がないためにそう感じられているのか、今後さらなる検討が必要である。

E. 結論

医療機関内での活用結果に対するインタビュー調査をもとに、知的障害者向けの「大腸がん わかりやすい版」が知的障害のある人に限らず、幅広い層にニーズがあり、有効であることが確認された。医療者にとっても、イラストがあることでよりスムーズな説明につながっていた。さらに、患者本人以外にも、患者の親や支援者など患者に関わる人に広げていくことにも意義があると考えられた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし